

## 中国の大学における新しい体育授業の試行的実践

王, 雪蓮

<https://doi.org/10.15017/1807137>

---

出版情報：九州大学, 2016, 博士（人間環境学）, 論文博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 王 雪 蓮

論文題名 : 中国の大学における新しい体育授業の試行的実践

区 分 : 乙

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 【研究の背景と目的】

昨今、中国の青少年の運動・スポーツをする時間は減少傾向にあり、発育発達や健康に悪影響が及んでいるとの指摘がなされている。また、高校までは規則的な生活習慣を維持していたが、大学入学後に、生活習慣が不規則になる学生も多い。このような現状を考えると、大学生が充実した学生生活を送ることができるようにするために、また、生涯にわたって豊かな人生を送るための基礎となる心身の健康の維持・増進のために、定期的な運動ができる環境を提供しうる「体育授業」の必要性は、一層強調されるべきである。

このような中、中国では、大学における体育教育を「健康づくりや社会的適応への第一歩」などと位置づけてはいるものの、実際の教育現場においては、旧来のスポーツ技術指導が中心となっており、健康の改善や社会性を高めるような授業は、ほとんど実施されていない。

そこで、本研究では、学生に健康にかかる新たな価値を付与するとともに、学生が魅力を感じるような授業プログラムの開発を目指して、その基礎となる情報を収集した上で、授業を試行的に実践し、その効果を検証することとした。

### 【結果の概要】

1) 第1章では、「価値ある体育授業」を構築するために必要な情報を収集することを目的として、中国の大学生の健康状態と生活習慣の実態、及び、それらの関係性を検討した。

研究Ⅰでは、「健康度・生活習慣診断検査 (DIHAL.2)」の中国語版を用いて、調査を行った。その結果、中国大学生の健康度や生活習慣は、全般的に中程度のレベルであり、一部の因子を除いて、改善する余地があるということが確認された。

研究Ⅱでは、健康度を規定する生活習慣要因を検討した。その結果、生活習慣のいくつかの因子は、身体的健康度と社会的健康度に有意な影響を及ぼしていた。一方で、精神的健康度には、生活習慣は有意な影響を示さなかった。このように、生活習慣の改善は、主として、身体的及び社会的健康の増進に結びつく可能性が示唆された。

研究Ⅲでは、体育系学部所属大学生と非体育系学部所属大学生とで、健康度と生活習慣を比較した。その結果、全般的に、体育系学部学生の方がよりよい健康度と生活習慣を有している傾向が認められたが、精神的健康度は、体育系学部学生の方が低かった。このことから、運動・スポーツ活動との深い関わりは、よりよい健康度や生活習慣と結びつく可能性は高いが、必ずしもすべてのタイプの健康に当てはまる訳ではないことが示唆された。

2) 第2章では、「魅力ある体育授業」を構築するために必要な情報を収集することを目的として、

中国の大学生がどのような体育授業を期待しているのか、そして、それらにどの程度満足しているのか、さらに、その満足感は何に規定されているのかについての調査を行った。

研究Ⅰでは、中国の大学生が体育授業に対してどのような期待を持っているかを調べるために、関連項目を収集した上で、6因子からなる「体育授業への期待尺度」を作成し、その信頼性と妥当性を確認した。

研究Ⅱでは、「体育授業への期待尺度」を基にして、大学生が体育授業にどの程度満足しているかを測定するための「体育授業に対する満足感尺度」を作成し、その信頼性、妥当性を確認した。

研究Ⅲでは、体育授業前後での健康度の変化と体育授業に対する満足感との関係を検討した。その結果、身体的健康度及び社会的健康度の向上が、高い授業への満足感をもたらしている可能性が示唆された。このことから、授業において健康度を向上させることは、授業に対する満足感を生み出し、それが学生にとっての魅力になりうるのではないかと推測された。

3) 第3章では、第1章及び第2章の結果を踏まえ、「価値」と「魅力」のある授業として、「健康度・生活習慣に関わる知識を教授しながら、社会的スキルの向上を企図する授業プログラム」を開発し、それを試行して、効果を検証した。その結果、健康度及び生活習慣の変化については、実践群とコントロール群の間に有意な交互作用は認められなかったが、一部の因子において、得点の向上が認められた。一方、社会的スキルの変化については、有意な交互作用が認められた。すなわち、社会的スキル得点は、実践群でのみ、有意な向上を示した。これらの結果から、今回試行された新しいスタイルの体育授業は、学生への魅力を保ちながら、新たな価値を付与する授業となりうることを示唆された。

#### 【まとめ】

本研究では、「価値」と「魅力」がある大学体育授業プログラムの開発とその試行的実践を目的とした。健康度及び生活習慣の調査より、十分な健康教育を行うことが、大学体育授業の価値を高めると判断された。また、体育授業に対する満足感にかかる調査より、身体的健康度あるいは社会的健康度の向上が、学生の満足感を高める可能性が示唆された。そこで、社会的スキル教育を含む健康教育を導入した体育授業プログラムを作成・試行し、一定の効果を確認することができた。中国においては、このような体育授業の実践はほとんど行われていないことから、本研究は、中国大学体育の発展に資することが期待される。

#### 【今後の課題】

1) 中国の大学生の健康度及び生活習慣を測定するために、日本で作られた尺度の中国語版を使用した。この尺度については、一定の信頼性は得られているが、中国の学生の健康状態等を一層的確に捉えうる尺度へと発展させられる余地もあり、今後の研究の進展が期待される。

2) 授業プログラムの効果検証において、実践群とコントロール群の社会的スキル得点の初期値に差が見られたため、授業効果については、十分な検証ができたとは必ずしも言えない。より信頼しうる結論を導き出すためには、十分な条件統制をした実験的実践授業の実施や、様々な授業を対象とした多様なデータの収集などが必要である。